

平成28年度

いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第1日 9月24日(土)

茨城県教育委員会教育長挨拶



茨城県教育委員会教育長
小野寺 俊

【要旨】

- ・資源の少ない日本においては、国際社会で戦える人材育成が重要となる。教師とは、国や地域をつくる人材を育てるというやりがいのある職業である。
- ・日本は、教育の大きな転換期であり、次期学習指導要領においては、覚える学習よりも考える学習が重要となってくる。児童生徒が課題を自ら見付け、考えて発表できるような思考力・判断力・表現力を育成しなければならない。
- ・教師に必要な力は、専門知識を教える「専門力」、人間としての魅力となる「人間力」である。教育の目的は、子どもたちの人格形成であり、教員自身も人格の向上に努めることが大切である。

「歓迎のことば」



茨城県教育研修センター所長
安藤 昌俊

【要旨】

- ・児童生徒にとって教師は、いつまでも先生である。児童生徒の成長を見届けることができるのは教師冥利に尽きる。
- ・教師が人を教え育てるということは、代償を求めない活動であり、活動そのものから喜びや感動を得ることができる。教師とは、崇高な使命を持っている。
- ・茨城県は、住みやすく、子育てと仕事に最適であり、教師としても成長できる環境である。一緒に茨城の子どもたちを育てよう。

講話「いばらきの魅力を伝える」

講話資料



一般社団法人 アーツ&マトリックス理事
元茨城県広報監
塩原 信夫 氏

【要旨】

- ・茨城県は「県別魅力度ランキング」で最下位という結果であるが、豊かな自然や、古代からの歴史・文化を育んできた大地の魅力に溢れている。
- ・現在行われている県北芸術祭では、見慣れた風景に入り込んだアート作品が展示されており、身近すぎて分からなくなっている「茨城の魅力」を浮き出させてくれている。
- ・茨城県では、移住交流促進セミナーを開催しており、本県の魅力としては、観光よりも仕事、生活、地域、人のつながりである。この視点での「魅力」を子どもたちにも伝えてほしい。

塾生のアンケートより

講話「いばらきの魅力を伝える」についての感想

- ・魅力とは、もともとあるものでなく、見出していくものであると実感した。行政や住民だけでなく、学校が茨城の魅力発信に関わっていくことができればおもしろい。【学生】
- ・茨城の魅力が伝わらないということは、茨城県民の課題の一つであるが、私たちが自ら動き、魅力を伝えていくことが重要であると感じた。【若手教員】
- ・塩原氏は、現場に行き、人の話を聞き、自分の言葉に落とすことを大切にしている。これは、教育活動にも通じることだと感じた。【学生】
- ・郷土愛のある子どもたちを育てていくためには、教師が茨城県の魅力を知り、語り、伝えていくことが重要であると感じた。【若手教員】

本日の感想

- ・教師は一生人と関わり、成長し続ける仕事という講話を聞き、教師の素晴らしさや魅力を改めて感じ、教師を目指す気持ちが高まった。【学生】
- ・国や県がどのような教師を求めているのかを知り、教育課題や教育の変化に対応できる教師になりたいと思った。【学生】
- ・教師として学び続ける姿勢の大切さを感じた。これからの研修で人間力と専門力を高めていきたい。【若手教員】
- ・茨城県はリカレント教育が受けやすいと聞き、いつまでも学び続けられる環境が素晴らしいと思った。【若手教員】